

(別紙) 令和4年度第1回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
委員	<p>1 開会</p> <p>2 座長挨拶</p> <p>3 委員等出席者の紹介</p> <p>4 議事</p> <p>(1)報告事項</p> <p>ア 定住自立圏構想について</p> <p>イ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会について 事務局から説明</p> <p>(2)協議事項</p> <p>ア 第2次北播磨広域定住自立圏共生ビジョンに掲げる各連携事業の進捗状況における評価基準の修正等について</p> <p>イ 第2次北播磨広域定住自立圏共生ビジョンの進捗・達成状況について</p> <p>【質疑応答等】 (NO.1からNO.6までの事業について)</p> <p>北はりま絆ネットのシステムの運用実績が伸びているということでした。このネットワークを活用して、病院と病院、病院と個人クリニック等の間で患者様の承認を得た上で、相互にデータの閲覧ができるということで、有効に活用されているとお伺いしています。この利用数が伸びているということは、病院と個人クリニック、また病院と病院等の連携が進んでいくのではないかと思います。よく言われる紹介逆紹介の状況も、病院の間で進んでいるのではないかと思います。その状況についてお伺いします。</p>
担当	<p>紹介率と逆紹介率の過去3年間のデータを報告させていただきます。4つの病院の中で一番低い紹介率が17%、高い紹介率が67%ですので、過去3年の紹介率の平均は、37.6%です。一番低い逆紹介率は31.5%、高い逆紹介率が72.8%で、過去3年の逆紹介率の平均は、51.0%です。</p>
委員	<p>医師の年間相互応援件数と北播磨病院連携会議は、関係があるのか。また、会議の中で、医師が足りないという話が出てくるのかお伺いします。</p>
担当	<p>会議の中で医師が足りないという話が直接出ることはないと考えている。ただし、各年度によっては、状況により足りない診療科が変わっていく可能性があるため、そのようなことが事前にわかれば会議の場で相談する可能性があるが、実態としては各病院の状況が変わった時に、病院間で相談し、お互いに相互応援するという状況であると考えている。</p>
委員	<p>権利擁護・成年後見事務を共同で行うということで、担当者会議が開催されたと思うが、具体的にはどのようなことを今回協議したのかお伺いします。</p>
担当	<p>各市町でそれぞれ取り扱った申立や、日常生活支援事業に関わる取り扱い件数など、各市町の動向を確認し、それぞれの市町で実際に中核機関・権利擁護センターを設置できるかという見通しについて、各担当課で協議を行った。今年度</p>

委員	<p>は、先進地視察を行うが、そこで、設置場所についてはどのような協議を経て、決定されたのかということ、重点的に調査したいと考えている。</p> <p>障がい児発達相談強化事業の中で、各市町の担当職員が顔を合わせて行う事業について新型コロナウイルスの影響によりできなかったため「△」となっているが、オンラインで行うことは難しいのかお伺いします。</p>
担当	<p>基本的には対面での実施を考えているが、今後はオンラインでの実施も検討したいと思う。</p>
委員	<p>顔を合わすのが一番いいと思うが、柔軟に対応し、継続して行う方が、関係者の方々との、繋がりが継続されるのではないかと思う。播磨内陸医務事業組合運営事業について、高齢化が進み医療従事者の確保が非常に大変だと思う。医療を受ける人は増えるが、従事者が外に出てしまい確保することが非常に難しいと思うが、学生を確保するために努力していることがあるのかお伺いします。</p>
担当	<p>学生・子供が減っていく中で、新たに看護師になる人材を確保していくことが課題であると考えている。また、社会人枠で新たに看護職を目指すという方も確保していきたいと考えており、一旦就職した方がハローワークで社会人枠として看護学校に入学した場合に助成金が受けられる制度の整備や、奨学資金制度の更なる充実など、人材の確保に向けた取組を進めています。</p>
委員	<p>(NO. 7からNO. 11までの事業について)</p> <p>紹介ですが、加西市では、加西 STEAM 教育連携事業というのがスタートしています。STEAM 教育とは、サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、マセマティクス、の5つを組み合わせ、様々なデザイン思考と言われています。子供たちが様々な課題について、単に教科で分かれている知識を、個別に使うのではなく融合し、生きていく力を身につけるという取り組みで、非常に今注目されています。今後、この事業が発展していくことを非常に願っているところです。</p>
委員	<p>兵庫教育大学連携講座事業について昨年度実施したのは、プログラミング教育、1回だけなのか。また、今年の講座はどのように考えているのか、今年もオンラインで開催するのかお伺いします。</p>
担当	<p>連携講座ですが、加西市でも講座をもっているが、加西市でいうと16校の教職員の日程を合わすのが非常に難しく、日程調整に苦労している。それが他市町になると、日程を確保するのが非常に難しいが、なんとか今年度は1回実施した。令和4年度は、加東市が主催となり、兵庫教育大学にお願いして、コミュニティスクールを秋頃に実施する予定としております。これも感染状況によりますが、できるだけ対面式で行いたいと考えている。基本的にはすべての研修講座を対面式で行いたいと考えているが、感染状況によっては、オンラインや時間短縮、複合型での実施となると考えている。</p>
委員	<p>評価基準について、コロナ禍であるということも考慮し、評価基準の変更や、評価方法の変更を検討してもいいのではないかと。</p> <p>また、創業支援について、量的な評価だけではなく質的な評価を行った方がいいのではないかと。例えばセミナーに参加をしたことにより創業に繋がるなど、そのような複合的な考え方で評価をしていければいいのではないかと。</p>

担当	<p>コロナ禍であり、オンラインを使ったセミナーと、実際に対面で行うセミナーと、両方するなどの工夫はしたが、創業支援連携事業については、目標値を下回った。目標数を下げることは難しいため、商工会議所・商工会等と連携し目標数に近づくよう努力します。創業支援連携事業ですが、委員が言われたとおり、コロナ禍で様々な働き方が増加しています。商工会の職員が相談にのっているので、商工会の会員数や創業の数が増加しております。創業者の数を毎年、他市町にも確認しているが、なかなか私たち公務員では思いつかないような起業をされており、そのような方を大切に、商工会、商工会議所、市の3者で、そういった方の支援を行っていきたいと考えています。</p>
委員	<p>(NO. 12からNO. 17までの事業について) 環境関連活動推進事業について環境イベントの参加人数が 726 人、達成率 181.5%ということで、二重丸がついていますが、この 726 人のうち、どこの市から何人参加しているのかお伺いします。</p>
担当	<p>来場者数の各市町の割合は、わかりかねますが、加東市で開催したため、加東市の方の参加が多かったと考えています。</p>
委員	<p>北はりま消防組合運営事業について、小規模な消防施設について今後考えていく必要があるのではないかと考えているが、どのように考えているかお伺いします。</p>
担当	<p>小さな消防拠点について、人材配置等の課題があり、24 時間となると、そこに配備する人数を確保する必要がありますので、今後の課題であると考えています。</p>
委員	<p>火災だけでなく自然災害も増加している。災害時のドローンの活用についてお伺いします。</p>
担当	<p>まずは加西消防署に配備し、操縦するパイロットの養成を今年度計画しております。</p>
委員	<p>旧出張所の今後の活用方法についてどのように考えているのかお伺いします。次に、広域防災対応能力強化事業について、防災訓練の実施の中で、HUG というカードゲーム方式を実施されたということですが、これは 3 市 1 町の広域で行われたのでしょうか。また、ハザードマップについて、危険箇所の紹介や、見直しの説明があるが、それに対する整備はこの北播磨広域で行えるのかお伺いします。</p>
担当	<p>旧出張所の活用については、各市町で対応することとなります。</p>
担当	<p>HUG ゲームにつきましては、各市町で実施したものです。今後は、広域での訓練なども実施していきたいと考えています。ハザードマップ危険箇所の見直し整備を広域でできないかということですが、現在のハザードマップについては、各市町で整備をしております。ハザードマップの広域での連携につきましては、今後検討いたします。</p>
委員	<p>防災備品を備蓄しているということですが、その中に食料品などがあると思います。賞味期限が来たものは、廃棄処分しているのか、あるいは、子供食堂など</p>

<p>担当</p>	<p>に寄付するなど、どのようなことをされているのかお伺いします。</p> <p>防災備品の賞味期限が切れた場合については、農業高校などで肥料として使用してもらうように農業高校に働きかけております。また期限が近いものについては、地元の防災訓練などでの配布や、子供食堂、低所得層の方への配布などに利用しております。</p>
<p>委員</p>	<p>(NO. 18からNO. 24までの事業について)</p> <p>公共交通広域連携調査・研究事業について、圏域全体の推計人口は減少傾向であるため、当地域において、特に観光資源を生かし、交流人口の増加に向けた取り組みを進めることは、有効であり圏域内を周ることができる乗り放題きっぷの発行などは、公共交通の活性化と維持、生活機能の充足に繋がり圏域内の定住化が促進されることと考えますので是非とも、調査・研究を進めていただきたいと思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>広域幹線道路整備推進事業についてですが、公園などでも雑草が目立っている。また、道路の白線や中央線が消えており非常に危険な場所がある。大きな舗装も大切だが、小さなお金がかかりにくいところからも、美化という点と安全という点からお願いしたい。</p>
<p>担当</p>	<p>雑草や白線などの要望は市にも出てきております。兵庫県の土木事務所にも依頼し、草刈りなどについても、一部の県道については年1回の草刈りが、年2回できるようになっており、昨年度よりこまめな、手入れができていないのではないかと考えております。北播磨県民局加東土木事務所に対する市や町からの要望は、これまでと同様取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>5 その他 ・今後のスケジュールについて</p> <p>6 閉会 ・副座長挨拶</p>